

平成30年度 強化方針

1. 基本方針

- (1) 平成22年度版の「競技者育成プログラム」に則り、選手・指導者の育成を推進する。
- (2) 全ての選手カテゴリーにおいて恒常的に全日本大会等の上位入賞を目標とする。
- (3) 卓球は個人と個人の戦いではあるがチームとしての戦いを重視した取り組みとする。

2. 施策

- (1) 競技人口の拡大はもちろん、特に小学生選手層の発掘、育成に重点を置き取り組む。
- (2) 資質を持った将来性ある選手を発掘し、より良い環境を整え重点的に育成強化にあたる。
- (3) 加盟卓球協会との連携をはかり卓球競技の普及、有望強化選手の発掘にあたる。

3. 目標

- (1) 国体5位以上の入賞および東北総体（ミニ国体）優勝を目標とする。
- (2) インターハイ、全国中学、全国ホープス、選抜大会等の上位入賞を目指す。

4. 組織

- (1) 会長を強化部長、理事長を強化委員長とした強化委員会を組織し強化事業にあたる。

5. 具体的強化

(1) 国体（ミニ国体）

① 核となる選手の明確化

- ・成年男子 北原 大輝（信号器材）
- ・成年女子 高橋 梓海（日本体育大）
- ・少年男子 小野寺翔平（専大北上高）

② 国体選手選考会

- ・成年の部 30年6月3日（日） 花巻市総合体育館第3
- ・少年の部 30年7月8日（日） 奥州市総合体育館

③ 監督

- ・成年男子 新沼 興隆
- ・成年女子 細川 健治
- ・少年男子 野田 春輔
- ・少年女子 小坂 信彦

(2) 中・高校生

- ① 各学校単位での育成強化が中心となるが必要に応じて強化の環境づくりを行う。
- ② 有望強化選手の選抜を行うとともに集合合宿、強化練習会等を実施する。

(3) 小学生

- ① 卓球競技の普及と有望選手の発掘を目的にオープンリーグを定期的開催する。
- ② 全国ホープス選抜大会での上位入賞を目標とし強化練習会、合宿などを実施する。
- ③ クラブ、スポ少単位のチーム作りを強化しホープス全国大会等の上位入賞を目指す。

(4) 社会人

- ① 練習環境の整備、充実
- ② 選手の自主性の醸成
- ③ 指導者の充実、確保
- ④ クラブチームの結成、活動、育成

(5) 指導者育成

- ① 国体監督の育成（公認コーチ資格取得）
- ② 中学校の指導者（顧問、外部コーチ）対象の審判・技術講習会等の実施
- ③ 定期的な指導者講習会の開催

6. 現状課題

(1) 卓球普及活動（登録者拡大）に向けた具体的な取り組み

○ 登録者の現状

- ・29年度実績 4,761名（前年度 4,471名+290名）
- ・30年度目標 5,000名

- ① 卓球普及イベント、普及目的指導者講習会、他競技とコラボ企画の開催など。
- ② 対象は、小学生低学年、ラージボール卓球に特に重点を置く。

(2) 全国へ向けた選手の育成

- ・更なる普及活動は行うものの全国へ向けた確固たる決意を持った選手の育成が求められる。

(3) 母体チームとの連携重視

- ・選手の育成強化は、日常の基本練習の継続取り組みが重要視されることから、本会としても母体チームと連携を丁寧に行う必要がある。

(4) 強化資金の捻出

- ・具体的強化施策の実行には、裏付けられた強化資金の捻出が欠かせない。

7. 委員会組織

強化部長	小野豊（会長）
強化副部長	柏山徹郎（副会長）
〃	新沼興隆（〃）
〃	小坂信彦（〃）
強化委員長	高橋和博（理事長）
強化副委員長	高橋栄喜（副理事長）
〃	細川健治（〃 高体連）
〃	長沼政行（〃 社会人）
〃	久保雄章（〃 カデット）
強化委員	野田春輔（高体連）
〃	新沼大隆（中体連）
〃	村上孝（ホープス）
〃	山田保（〃）
〃	増沢純（審判）
〃	鈴木三和子（レディース）